



「防災・減災」啓発キャラクター「ジジョ」

2022年の電気火災は、 電気機器からの出火が第1位！



令和4年中に名古屋市内では508件の火災が発生しました。前年比では40件増加しました。また、火災による死者数は17人でした。

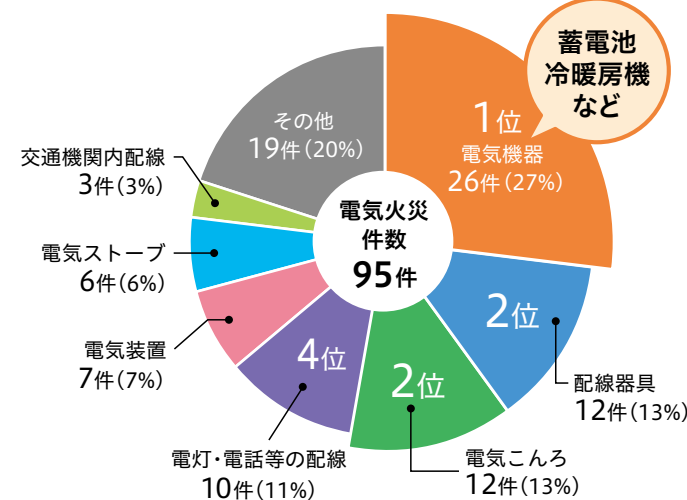
令和4年中に名古屋市内で発生した508件の火災のうち、電気に起因する火災（以下「電気火災」という）は95件で、前年より11件増加し、電気火災は全火災の18.7%を占めています。

電気火災を細分すると、家電製品や電池などの「電気機器」からの出火が26件で最も多く、次いでコンセントやプラグなどの「配線器具」及び「電気こんろ」がそれぞれ12件、屋外配線や屋内配線などの「電灯・電話等の配線」が10件、発電機やモーターなどの「電気装置」が7件、「電気ストーブ」が6件、車両配線などの「交通機関内配線」が3件となっています。

なお、電気火災の出火の要因を見ると「電線が短絡する」が19件、「可燃物が接触する」及び「トラッキング」が各13件の順になっています。

※「 」内の用語は当局が火災統計分類上使用している用語です。

〔電気火災の出火原因〕



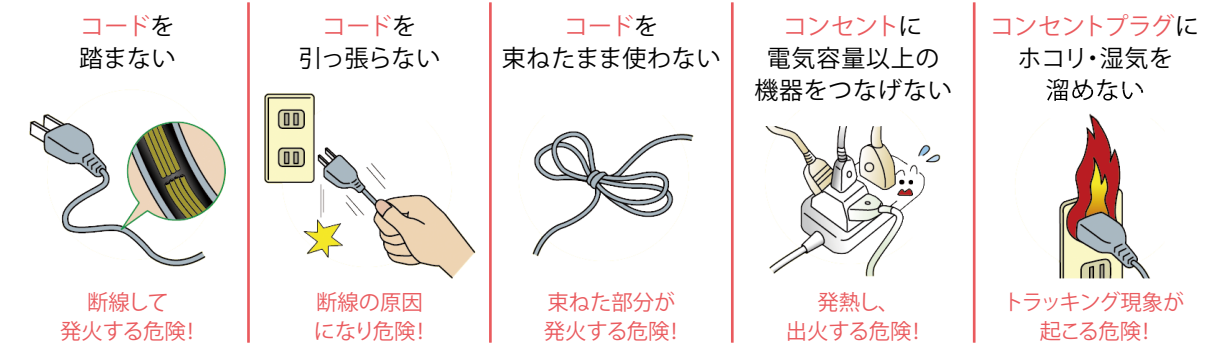
〔電気火災の出火の要因〕

1位	2位	
電線が短絡する (19件)	可燃物が接触する (13件)	トラッキング (13件)

電気機器を正しく使って、電気火災を防止しましょう。

私たちは数多くの電気機器に囲まれて生活しています。電気はたいへん便利なものですが、誤った使い方をすると火災につながる可能性があるということを認識して、電気火災の防止に努めていただくようお願いいたします。

電気火災に注意！



春の火災予防運動

実施期間
3月1日(水)～3月7日(火)

2022年度全国統一防火標語

「お出かけは マスク戸締り 火の用心」

空気の乾燥や暖房器具の使用により、火災が発生しやすいシーズンであり、全国一斉に「春の火災予防運動」が実施されます。

次の点に注意して事業所の防火・防災対策をお願いします。

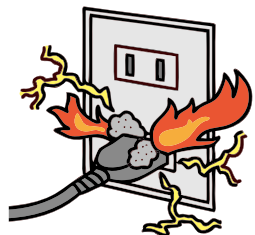
- たびこの火の始末を確実にし、暖房器具・こんろなどを使用している時はその場から離れないなど、火気の適正な管理をする。
- 従業員一人ひとりが、火災が発生した場合の役割を確実にこなせるよう、定期的に消防訓練を実施する。
- 消火器や自動火災報知設備、誘導灯などの消防用設備は、適切に維持管理するとともに、その使用方法等を習熟する。
- 放火火災を防ぐために、建物の周囲や階段、通路に燃えやすい物を置かない。また、倉庫など人の出入りが少ない建物の施錠管理を徹底する。
- 外国人の来訪者、障害者などが利用する施設では、災害が発生したときの情報伝達、避難誘導等に関して多言語化、視覚化等の取り組みを推進する。
- 過去の大震災等の教訓を踏まえて、感震ブレーカーの設置など出火防止対策を行う。



名古屋市消防局

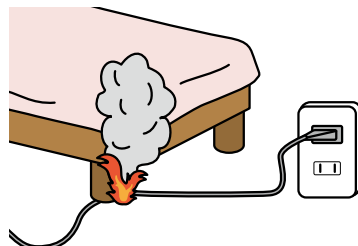
電気火災の事例

事例1 コードプラグにホコリなどが付着し出火



エアコンの電源コードプラグがコンセントに差し込み不十分であったため、湿気やホコリなどが付着したことでトラッキング現象が発生し出火

事例2 下敷きになったコードが原因で出火



重い家具などの下敷きとなった延長コードが半断線状態になり、配線が短絡し出火

事例3 布団がストーブに接触し出火



電気ストーブをつけたまま就寝したため、布団がストーブに接触し出火